第4回　知的障がい者日韓スポーツ交流プログラム

日韓国交正常化60周年認定事業

【実施報告書】

2025 年9月

一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会

はじめに

「知的障がい者日韓スポーツ交流プログラム（以下、同プログラム）」は、2015 年９月に南米エクアドルで行われた第 4 回 INAS グローバルゲームス（知的障がい者アスリートの国際大会）において、日本から参加した５競技団体（バスケットボール、フットサル、卓球、陸上競技、水泳）と当時参加された韓国選手団とが、今後のアジア地域における知的障がい者スポーツの発展に、日本と韓国が互いに協力していく方針を確認した事に端を発しており、今回で４回目となります。

そして今回は、東京ドームスポーツセンター東久留米を会場とし、「卓球」「バスケットボール」「フットサル」の３つが対象競技（１６・１７日）となりました。

同プログラムは草の根的活動を重要視しており、日本政府が進める Sport for Tomorrow の精神に準拠したスポーツ国際貢献事業です。特に戦略的パートナーシップを結んだ両国は、不断の努力によってこれを保持し、スポーツを通じた知的障がい者スポーツの普及・発展に寄与する事はもとより、最も友好な隣国として、知的障がい者スポーツの価値を高める活動として同プログラムを位置付けております。

特に今回は、富田東久留米市長への表敬訪問、地元太鼓クラブによるセレモニー、さらには、ラジオ生出演に至るなど、多くの方々による協力・協賛・寄付など、確実に前回のプログラムを上回る規模となりました。

そして何よりも、日本と韓国の選手同士が積極的に交流を行い（試合以外の場所においても）、互いの文化や歴史などを、同プログラムを通じ理解・尊重し、大変思い出深いプログラムになったと思います。

最後に、同プログラムは、外務省「日韓国交正常化 60 周年」の認定を受けており、当時者のみならず、更に両国にとって意義深いものとなったことは、いずれ、歴史が歓迎してくれると固く信じております。

一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会
会長　斎藤　利之

【1】 日程

	day	action	Hotel/meal
1	15／Aug (Fri)	12:05 GMO Dep. (JL92) 14:15 HND Arr. After(15:30) HND→ (Bus) →To Higashikurume City Hall(17:00) Courtesy visit to the Mayor →To Hotel(by walk) 19:00 Welcome party	Toyoko-inn hotel Dinner Restaurant **＊Formal dinner**
2	16／Aug (Sat)	＜ALL＞ Opening Official welcoming ceremony Hotel:Dep 08:40(by walk) ★Venue：https://www.shisetsu-tds.jp/tokyo-higashikurume-sc/ AM(09:00-12:30)：Training (Sports center) PM(13:00-16:00)：Game (Sports center) Vs Japan national team Venue: Dep：16:15(by walk) Arranged for each competition organization 18:00/18:30⇒Dinner	Breakfast Hotel Lunch Venue Dinner Restaurant
3	17／Aug (Sun)	＜ALL＞ Hotel:Dep 08:40(by walk) ★Venue：https://www.shisetsu-tds.jp/tokyo-higashikurume-sc/ AM(09:00-12:30)：Training (Sports center) or game PM(13:00-16:00)：Game (Sports center) Vs Japan national team PM(14:00-15:00)：radio Venue: Dep：16:15(by walk) Arranged for each competition organisation 18:00/18:30⇒Dinner	Breakfast Hotel Lunch Venue Dinner Restaurant
4	18／Aug (Mon)	＜Cultural program＞ Sightseeing 09:00～17:15 (To Asakusa & Skytree) by Bus 18:00⇒Dinner ※Arranged	Breakfast Hotel **Lunch** **Free** Dinner Restaurant
5	19／Aug (Tue)	Dpt.Hotel⇒10:00 15:40 HND Dpt. (JL93) 18:00 GMP Arr.	Breakfast Hotel **Lunch** **Free**

【2－1】 参加メンバー（韓国）

	Category	Event	Name(Korean)	Name(English)	Gender
1	staff	other	남대현	Nam Daehyun	M
2	staff	other	채지석	CHAE JI SUK	M
3	staff	other	임진수	LIM JIN SU	M
4	staff	other	윤수빈	YUN SU BIN	F
5	staff	other	이현지	LEE HYEON JI	F
6	staff	other	김상진	KIM SANG JIN	M
7	Coach	basketball	이한근	LEE HAN GUN	M
8	Athlete	basketball	김인재	KIM IN JAE	M
9	Athlete	basketball	박영재	PARK YOUNG JAE	M
10	Athlete	basketball	김다솔	KIM DA SOL	M
11	Athlete	basketball	추한솔	CHU HAN SOL	M
12	Athlete	basketball	임동준	LIM DONG JUN	M
13	Coach	futsal	천종효	CHEON JONG HYO	M
14	Coach	futsal	이도원	LEE DO WON	M
15	Athlete	futsal	장신영	JANG SIN YEONG	M
16	Athlete	futsal	류재중	RYU JAE JUNG	M
17	Athlete	futsal	배동진	BAE DONG JIN	M

18	Athlete	futsal	이준석	LEE JOON SEOK	M
19	Athlete	futsal	문홍주	MUN HONG JU	M
20	Athlete	futsal	이병철	LEE BYEONG CHEOL	M
21	Athlete	futsal	김도현	KIM DO HYUN	M
22	Athlete	futsal	김민찬	KIM MIN CHAN	M
23	Coach	Table tennis	김정중	KIM JEONG JUNG	M
24	Coach	Table tennis	김용우	KIM YONG WOO	M
25	Athlete	Table tennis	진성민	JIN SEONG MIN	M
26	Athlete	Table tennis	이휘성	LEE HWI SEONG	M
27	Athlete	Table tennis	정규영	JEONG KYU YOUNG	M
28	Athlete	Table tennis	최수환	CHOI SU HWAN	M
29	Athlete	Table tennis	김영민	KIM YOUNG MIN	F
30	Athlete	Table tennis	임수연	IM SU YEON	F
31	President	other	정양석	CHEONG YANG SEOG	M
32	Vice President	other	박성근	PARK SUNG KEUN	M
33	Secretary General	other	김대경	KIM DAEKYUNG	M
34	Executive	other	차정훈	CHA JUNG HOON	M
35	Executive	other	강감찬	KANG KAM CHANG	M

【２-２】　参加メンバー（日本）

裨益者は以下の通りとなります。

日本側（各所属）	裨益者
知的障がい者卓球連盟	選手（男性）: 5 名 選手（女性）: 3 名 スタッフ : 5 名
知的障がい者バスケットボール （クラブチーム）	選手（男性）: 9 名 スタッフ : 3 名
知的障がい者サッカー連盟 （フットサル）	選手（男性）: 13 名 スタッフ : 2 名
東久留米市立大門中学校 バスケットボール部	選手（男性）: 6 名 選手（女性）: 8 名 先生（引率）: 3 名
東久留米市卓球連盟	選手（男性）: 5 名 選手（女性）: 3 名
早稲田フットサルクラブ ZOTT （クラブチーム）	男性 : 9 名 スタッフ : 2 名
運営者数（市役所職員除く）	16 名
歓迎式典（太鼓演奏者）	10 名
観客数（目視）	30 名
合計	**132 名**

【3】 各競技団体より（3競技団体）

＜卓球（報告者:西本　清巳氏）＞

①実施した交流プログラム内容

・韓国人選手　　6 名、スタッフ　2 名

・日本人選手　　16 日:7 名、スタッフ　3 名、通訳　1 名／17 日:6 名、スタッフ　4 名、通訳　1 名

・東久留米卓球協会　17 日のみ:6名

＜8月16日＞

10:00～10:15　　ウォーミングアップ

10:15～11:00　　（6 台使用）韓国選手×日本選手:自主練習

休憩

11:15～12:00　　（6 台使用）韓国選手×日本選手:自主練習／全選手が総当たりで課題練習

昼食休憩

13:00～15:40　　（3台使用）団体戦:韓国チーム×日本チーム／3セットゲーム戦

～16:00　　整理体操、解散

＜8月17日＞

9:30　　集合
9:40～55　　ウォーミングアップ
9:55～　練習（15 分×4 回）／ 1 台に日本選手×韓国選手×東久留米選手※6 台使用
10:55～11:10
　　休憩
11:10～　試合（日本選手×韓国選手×東久留米選手でリーグ戦）／3 セットマッチ

② 得られた成果

参加したメンバーはコミュニケーションに関して積極的、少し消極的な方それぞれでしたが、交流会に関して興味も持っていたことは会話から伺えました。競技会場に移動後は、国際大会でペアを組んだ経験のある選手、対戦した事がある選手がいて、事前の大会時にお互いがこの交流会に参加する事を連絡していた事もあり、仲良くなるのは早かったように思えます。韓国語を話せる選手が相手チームとの懸け橋をしてくれました。その様子を見る事が選手にとって良い見本となりそれぞれが工夫し打ち解ける大きなきっかけとなったと思います。
参加選手の人数や状況に合った進行方法を相談しながらすすめました。その相談がお互いを理解する上で貴重な時間となりました。

時間が経過するにつれ、それぞれの選手が徐々にではあるが積極的に交流を図ろうとする姿勢が伺えた事、伝達手段を自主的に考え試行錯誤をはじめた事、理解しようと一生懸命聞く姿は選手にとって大きな成長だと思います。伝えるために表情やジェスチャーなどにも工夫や変化がありました。表現する事の大切さ、伝える事の難しさと分かり合える喜びを知りました。

韓国チームのコーチは情熱的でそれでいて和やかな雰囲気に勇気づけられ、自然に会場の至る所で交流が進んだように思えました。日本選手に対しても技術指導を行うなど選手にとっては貴重な体験となりました。技術面においても多くの選手と練習、試合をすることは今後の戦術や技術習得に於いても大きな収穫となりました。

③全体を通じて（まとめ）

全体を通じて、参加人数やその場の状況（年齢や疲労度、会場の広さ、応援者の数）などを配慮した進行は居心地の良い環境つくりには大切だと感じました。中でも卓球台を少なくしセンターコートを設置しました。多くの応援者の中でプレー出来たことは緊張感もあり、選手にとっては刺激的な試合だったと思います。通訳さんを配置して頂いたことで相談もスムーズに行われたと思います。運営スタッフさんの準備して頂いた冷たい飲み物やお弁当も皆さんの気持ちの癒しとなり会場の雰囲気作りに欠かせないと感じました。皆様の温かい心遣いには感謝の気持ちでいっぱいです。

卓球競技が地域、年齢など様々な枠を超えお互いを分かり合える貴重なものだという事を再認識しました。他競技の選手が頑張っている姿を見ることが出来たことも大きな刺激となりました。スポーツの素晴らしさ、人の温かさを実感した二日間になりました。

④今後の課題や展望

今後の課題としては、何事にも積極的に参加を促せるようにしたいと思いました。また、今回の日韓戦を多くの方に伝える事も参加した私達がやらなければならない事だと思いました。韓国チームのコーチはじめ選手の積極性、運営スタッフの細やかな心配り等見習うべき点が多いと感じました。次回は参加した私達が良き見本に

なるようにしたいと思いました。選手にとって、今回の経験はかけがえのない時間になったことは間違いありません。培われた積極性やコミュニケーション能力等を練習や大会、日常の生活の中で実践して今まで以上に様々な事へチャレンジし成長を期待したいと思います。

交流会に参加し素敵な経験が出来た事は多くの関係者、スタッフの支えがあったことを実感し感謝の気持ちを持ち続けて欲しいと思います。今後も自分達が大好きな卓球や何気ない生活を送るうえで多くの方々の応援やサポートが必ずある事を忘れず、そしてその応援して頂ける方々に感謝の気持ちが伝わるような時間を大切に過ごして欲しいと思いました。

最後にこのような貴重な機会を与えて頂きありがとうございました。素敵な経験が出来たことに感謝の気持ちでいっぱいです。

＜バスケットボール（報告者：福原　美希氏）＞

①実施した交流プログラム内容

・韓国人選手　5 名、スタッフ　1 名、通訳　1 名

・日本人選手　9 名、スタッフ　3 名、通訳　1 名

【16 日午前】

全員でのウォーミングアップ・ドリブルシュート

1 対 1（ボールを受け取ってからのボディコンタクトを意識）

2 対 2（状況判断をしてからのボディコンタクトと合わせる意識）

シューティング練習

【16 日午後】

日韓戦　10 分×３本　※途中韓国側にけが人がでてしまいフル試合はできなかった

【17 日午前】

日韓戦　8 分×２本　　日韓混合での試合　8 分×2 本

【17 日午後】

日韓混合での試合　6 分×3 本

②得られた成果

全日本メンバーが参加できない中で、SMILE チームにこのような貴重な機会をいただけたことは大きな経験となった。海外の仲間と同じコートで競い合えた経験は、選手たちにとってかけがえのない財産となり、今後のプレーや成長にも大きな影響を与えるものと確信している。

韓国側のレベルや人数が不明な中での準備ではあったが、当日は大きな問題もなく、選手・スタッフともに笑顔で交流を深めることができた。言葉は通じなくても、コート内では選手同士がハイタッチやボディランゲージでコミュニケーションを取り合う姿が見られ、コート外では通訳さんを通し、同年代の仲間としての交流もできた。

③全体を通じて（まとめ）

全体を通して、大きな混乱もなく円滑に交流が行われ、日韓双方にとって貴重な経験となった。一方で、2 日目の午前中にはオフィシャルが不在となり、日本側で対応する場面があった。韓国側が 5 人のみの参加

だったため、1 日目は怪我人が出て試合が途中終了となり、2 日目もハーフでの試合となり、フルゲームを行うことができなかったのは残念であった。しかし、その分日韓混合での試合を十分に行うことができ、結果的には有意義な交流の場となった。また、もし会食などの機会があれば、さらに友好を深め、他競技の選手との交流にもつながったのではないかと感じる。

④今後の課題や展望

今回の日韓戦を通じて、選手たちが得られた学びや気づきは非常に多かった。私自身も、Virtus のフランス大会やカザフスタン大会を観戦した際に実感したが、世界の選手やプレーに触れることは、選手だけでなく監督やスタッフにとっても貴重な経験であり、技術力の向上や視野の拡大につながると思われる。
今回の韓国の選手たちは、コート内でのアピールや豪快なプレーなど、SMILE チームにはあまり見られない特徴を持っていた。こうしたプレーを取り入れることで、チーム全体の技術力向上や戦術の幅の拡大につながると感じている。さらに、日本で Virtus の世界大会を開催できれば、日本の選手はもちろん、保護者、施設の職員、そして障害者バスケットボールにまだ馴染みのない人々に関心を持ってもらうきっかけとなり、日本全体の競技力向上や環境整備にもつながるのではないかと考える。

＜フットサル（報告者：戸西　寿和氏）＞

①実施した交流プログラム

・韓国人選手　8 名、スタッフ　2 名
・日本人選手　13 名、スタッフ　2 名

（1）　8月16日（土） 9:00～　場所：東久留米スポーツセンター

日本と韓国の挨拶から始まり、アイスブレイク、基礎的な練習などを実施した。
参加した選手の中には、事前に調べた韓国語などで話しかけていたことが印象的だった。韓国の選手も日本の選手も初めは緊張していたが、ボールを一緒に蹴る時間とともに笑顔も増え、リラックスした感じでトレーニングすることができていた。W-Up、パス＆コントロール、ロンド、シュートトレーニング、2 人で協力してゴールを奪う、といった内容を行った。トレーニング中は、両国の選手同士でハイタッチする姿も見られるようになった。

午後のトレーニングマッチ（15 分×2本。ランニングタイム）では、日本と韓国の実力差はあったものの、お互いリスペクトを持った中で取組むことができた。また、PK 戦を行い、両国盛り上がる雰囲気が印象的だった。その後に行われた選手を混ぜてのゲームでは、得点が入るたびに選手同士ハイタッチして喜ぶ姿が交流という意味でも意義深いものであった。

（2）8月17日（日） 9:00～　場所：東久留米スポーツセンター

午前中は、韓国とのトレーニングマッチ（10 分×2 本。ランニングタイム）を実施した。前日に続き、この日は通訳さんを通じて両国の情報交換も積極的に行われ、良い交流ができたのではないかと思う。また、この日は ZOTT　WASEDA（関東フットサルリーグ所属）U18 が参加してくれた。日本と ZOTT WASEDA　U18 の試合では、展開も早く、白熱した試合展開に大きな拍手が送られていた。特に日本チームが得点した際に、韓国選手団が盛り上がってくれたことが嬉しい出来こととしてあった。

午後は日本、韓国、ZOTT と一緒に合同練習を行った。韓国語や名前を呼び合う内容で、相互理解も前日よりもさらに深まった。3 チームの選手を混ぜての試合では、良い連携からの得点が多く生ま

れ、充実した時間となった。参加してくれた選手たちは、**とても良い経験になったのではないかと思われる。**

②得られた成果

（1）日韓の選手はもちろん、コーチ陣との友好関係を構築することができた。言葉の難しさは両国にあったものの、通訳さんやスマホの翻訳アプリを使い、交流を深めることができた。

（2）日韓の選手のレベル差はあったものの、国際試合という経験をすることができたことは非常に貴重な経験となった。

（3） 両国の現状を知り、今後に向けてさらなる発展につながっていくと感じられた。韓国側は普段体育館でプレーすることがないことから、フットサル特有の足裏でのトラップなど知ってもらうことができたのではないかと思う。

③全体を通じて

韓国選手が8名ということで、選手の様子を伺いながら交流をメインにプログラムを行った。ピッチ上で交流できる機会が 3 回程あったことが良かった。レベル差がある中で、韓国側と日本側との思いの差も多少なりともあったものの、総じて有意義な時間になったのではないかと思う。2 日間という短い期間の中で、選手同士の相互理解が進んみ、笑顔が多くみられたことが代えがたい時間であったことがうかがえる。

また、本連盟は Virtus 2025 World Futsal Championship 大会が迫っていることもあり、大会に向けた選手選考、調整を兼ねてこのプログラムへの参加を決定した。コロナ過以降、国際経験ができていなかったため、とても良い交流となった。また、日韓のコーチ同士で、知的障がい者のサッカー・フットサルにおけるそれぞのれ現状や課題についても情報共有することができた。

④今後の課題や展望

今回の交流を 2027 年の Virtus Global Games にもつなげながら、今後も日韓の交流を深めていきたい。まだまだ、知的障がい者フットサルもそうだが、知的障がい者の様々な競技においても認知度は低い現状がある。こういった国際交流の場をきっかけに、韓国、日本両国にとって多くの方々に知ってもらい、支援やサポートの輪が広がっていくきっかけになっていければと思う。

主催者である ANISA の皆様はじめ、東久留米市関係者の皆様、韓国チームの皆様、ZOTT WASEDA の皆様、保護者の皆様、非常に貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

【4】 本部より

＜通訳（報告者：小堺　淳恵氏）＞

今回、韓国と日本の知的障害をもつ方々によるスポーツ交流の場で、通訳を担当させていただいた。私は卓球チームを担当し、三日間を通じて選手や関係者の方々と関わることができた。通訳という立場で参加したが、実際には言葉以上に大切な「交流の力」を強く感じる時間だった。選手同士は言語が異なっても、卓球を通じて自然に笑顔を交わし、拍手やハイタッチで気持ちを伝え合っていた。その姿を目の前で見て、スポーツには国境や言葉の壁を超えて人をつなぐ力があるのだと改めて実感した。

一方で、通訳としての自分の役割についても多くを学んだ。選手や指導者の思いをできる限り正確に伝えることを心がけたが、同時に場の雰囲気や気持ちをどう言葉に乗せるかの難しさも感じた。完璧ではなかったかもしれないが、自分なりに懸命に取り組んだことで、少しは交流のお手伝いができたのではないかと思う。

三日間を振り返ると、通訳の経験を積む貴重な機会であったと同時に、人と人がつながる瞬間の尊さに触れることができた時間だった。この経験を忘れず、今後も語学を磨きながら、人と人の橋渡しができるような存在になりたいと感じている。

＜通訳（報告者:鄭　相立氏）＞

第 4 回韓日スポーツ交流戦で通訳させていただき本当にありがとうございました。こういう大会がある事は初めて知りました。韓日は一つだ！と感じました。初日はただびっくりでした。韓国から来た選手たちに会うのが嬉しかったです。2 日目は日本チームとの試合でバスケットの通訳をさせていただきました。緊張もあり上手くできなかったことにとても残念だった思いがあります。3 日目は慣れた気持ちもありより嬉しく頑張れたと思います。

特に日本のフットサルコーチに感動しました。1,2,3 などをハングルで言っていただきの韓日選手ウォーミングアップは涙が出ました。国の壁が全くないのを感じとても嬉しかったです。より日本を愛し韓国を愛する気持ちになりました。東久留米市市長様のお話でもとても希望を感じました。2 泊 3 日間の日程で日韓の選手たちに情がいき別れは寂しかったです。これからも素晴らしい活躍を応援致します。ありがとうございました。

＜通訳（報告者:小堺　篤氏）＞

今回日韓スポーツ交流プログラム 3 日間の通訳を担当させて頂きました。初日は空港でお迎えし、東久留米市庁への表敬訪問、ホテル移動、歓迎会のスケジュールで行われました。少しは経験があるものの 20 年近くやっておらずしかもリハーサルなしの本番だったため初日は失敗もありましたが、2 日、3 日目の競技においてはそれなりにできたと思います。

今回のプログラムを通じて感じたのはスポーツ交流の素晴らしさでした。言葉がなくても通じ合える内容としての力を感じます。オリンピックは世界平和のためにやられていると思いますがスポーツにはそのようなパワーがあることを実感いたしました。私は 3 競技中(卓球、バスケット、フットサル)フットサルの通訳を担当させて頂きましたが、時間が経つにつれ韓国と日本の選手たちが近くなって行くのを感じました。またコーチ陣も韓国語をとり入れたトレーニングなどで工夫されており日本チームも韓国語を楽しむことができたと思います。実力的には日本の方が上まっていてかなりの差がありましたが、指導者の方々も率直に交流をしながらより両国選手のためになるようなプログラムが進行してゆきました。

最終日は地元高校のチームも合流し日本チームと高校生健常者チームの試合も見応えがありました。最後は 3 チームの合同チームで戦い国を超えた友情を分かち合うシーンが印象に残りました。全ての選手達が喜んでいることに希望を感じました。これを機に韓日の友情、障害者、健常者が互いに理解出来る社会が広がればいいと思いました。今回は有難うございました。

＜看護師（報告者:松本　美津子氏）＞

2 日間のプログラム会期中は、看護師 1 名、整体師 3 名体制にて対応しました。

以下、対応した内容をご報告致します。

① 受傷者は 2 日間を通して 25 名（重複 6 名）発生しました。

②症状（多い順）

・捻挫

・頭部打撲

・打撲

・肉離れ

・ジャンパー膝

・腰部回旋痛

など頭部打撲者は 3 名居た、脳震盪を疑いアイシングをしながら経過観察をした。結果、脳震盪には至りませんでした。

③処置（多い順）

1 位：アイシング、2位：テーピング、3位：マッサージ、4位：ストレッチ、5位：鍼

④種目別内訳

・フットサル　　14 名

・卓球　　3 名

・バスケットボール　2 名

激しい動きのあるフットサルが受傷率が多かった、バスケットが少ないのは　意外でした。

⑤国別受傷者

韓国　11 名　　日本　8 名

⑥今大会では内科的な症状で処置を施した選手は居ませんでした。整体師曰く、外科・整形的な症状で整体師 3 名がフルに対応をしたが、内科的な要素があった場合は看護師との連携が取れるので安心が出来るとコメントが有りました。看護師としても、同じ会場に整体師が常駐していることで安心が出来ました。

＜ボランティア（報告者：嘉喜田　平氏）＞

先ず、第 4 回のプログラムは、日韓国交正常化 60 周年という筋目に当たる記念すべき開催年度であった。その様な意味深い年にお手伝いが出来たことに感謝を申し上げます。

以下、ボランティア活動の概略をご報告致します。

1．役割

運営サポート

① 1F 会場設営、VIP ルーム、2F 観覧席の区分け（日/韓選手/大門中/一般席）

② 横断幕、各種掲示物の準備、音響関係

③ 飲食準備（昼食、ドリンク）

④ セレモニー（和太鼓サークル）との連絡調整

⑤ 司会、来賓対応、他ボランティアメンバーとの連携

2．所感

交流プログラムであり、コミュニケーション第一と構えていたが、日韓双方に自然と溶け込める雰囲気があり、早い段階より良い雰囲気の場となっていた。「スポーツに国境は無い」なる台詞を聞くが、これが正にそうなのかとスポーツの奥深さを再認識しました。

３. 振り返りを実施

パート毎に振り返りを実施、良いところ（継続）、課題（廃棄する内容/改善する内容）を洗い出し次年度につなげる様に記録に残しました。

例）選手観覧席の区分けを韓国選手/日本選手と分けたが、選手同士の更なる交流を図るため、同じ席にしたらどうか？　など　次回につなぐ工夫を模索したい。

＜ボランティア（報告者：田中信行・麻未子・和弥氏）＞

私共は家族3人でボランティアスタッフとしてお手伝いさせて頂きました。私たちは海外の方との交流イベントに関わることは初めてでしたが、生活習慣の違いやし好の違いなどを感じる経験となりました。しかし日本も韓国もスポーツを純粋に愛する人たちのひたむきさ、そして知的障がい者特有の人懐っこさなどは同じなのだなと感じることが出来ました。

また今回は知的障がいのバドミントン競技者である息子も、日本以外の知的障がい者アスリートと触れ合えたことは彼の財産となる経験になったと思っています。このような機会を頂いたANiSAの皆様に感謝申し上げると共に、今後も知的障がい者アスリートが活躍できる場を提供して頂きたいと強く感じました。

＜ボランティア（報告者：萩原　朋典氏）＞

① 役割

運営サポート・・・会場設営

横断幕、各種掲示物の準備、音響関係

東京ドームスポーツセンター東久留米との連絡係

② 所感

今回は、斎藤会長の推薦のもとでボランティアスタッフとして 2 日間活動してまいりました。初めての海外選手団の皆さんと交流を深めて日本と海外のスポーツプログラムの違いに多いに勉強になりました。スポーツを通じて国の交流を深めるの事は、いい友好関係だと思いました。

＜バスケットボールクリニック（報告者：神田　誠仁氏）＞

先日は、1 時間半の大門中学校男女バスケットボールチームの皆様へのクリニックをありがとうございました。1 時間半という時間ではございましたが、レクリエーションから始まり、ドリブル、パスの基礎、さらにピック&ロールや 2on2 の応用練習を行い、充実した時間を過ごすことができたかと思います。

選手が非常に熱心に取り組んでいただき、練習後には自ら質問に来る姿も見られ、大変意欲的でした。

このような貴重な機会をご準備いただいた斎藤様をはじめとした運営の皆様に、心より感謝申し上げます。

韓国と日本の架け橋の一助になることができておりましたら、大変光栄です。（お弁当もありがとうございました）

皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。改めて、貴重な機会をありがとうございました。

総括

「第４回　知的障がい者日韓スポーツ交流プログラム」は、韓国側から総勢３５名（本部スタッフ：６名／コーチ・アスリート２４名(卓球：８名、バスケットボール：６名、フットサル：１０名)）／幹部役員５名）が訪日し、５日間の全日程を終えることができました。

（内、スポーツプログラムは、１６・１７日　於：東京ドームスポーツセンター東久留米）

両国とも大きなケガもなくすべての日程を終了でき、大変安心しております。特に身体的な状況（状態）だけでなく、精神的な状況も気にしながら運営を実施してきましたが、いずれも大きなトラブルもなく、選手たちは、十分に実力を発揮できたのではないかと思います。

さて、今回のプログラムは実に多くのシーンをご用意いたしました。オープニングセレモニーでは、祭っ鼓さん（太鼓クラブ）の圧巻のパフォーマンスで幕を開け、その後、スムーズに各競技の活動が出来ました。選手同士の交流だけでなく、監督・コーチが普段の練習の課題や練習方法などを共有し、まさに両国の活動がエクスチェンジできたのではないかと思います。また地元大門中学校の生徒さんや卓球連盟さまも参加頂き、共生社会やインクルーシブな社会をスポーツ通じて体現できるプログラムとなりました。

一方、事務方としては、お食事の面でも十分な配慮を行いました。補食の準備（朝食・昼食）を行い、更には、韓国側の夕食では、毎回、通訳の協力を得て、ホテル近くの中華料理屋でスムーズな注文を行うなど（事前にお店と協議をするなど)、極力ストレスがかからない工夫に心がけました。また、事務運営においては、知的障がい当事者（田中和弥さん：知的障がい者バドミントンアスリート）の方にもご協力頂き、まさにインクルーシブや共生社会の実現を体現できました。

スポーツプログラム終了後には、浅草寺や東京スカイツリーなどを観光し、リラックスをしながら日本文化に触れて頂きました。偶然にも観光を終えた後（１０分後）にゲリラ雷雨となり、天気の急変もありましたが、運よく、無事に観光を終了することができました！

同プログラムは、通算では４回目となり、東久留米市では２回目となります。本当に地元の皆さまにはお力添え頂き心より感謝申し上げます。そして、ご協賛頂きました各企業の皆様そして個人におかれましても重ねて御礼を申し上げます。

最後に、来年は、日本が韓国へ行く順番となります。今から大変楽しみにしております。今回は、バスケットボール、フットサル、卓球の３競技でしたので、次の訪韓に関しては別の競技団体の派遣を基本とし、多くの知的障がい者アスリートの皆様に体験・経験してもらいたいと考えております。

追伸

尚、同プログラムは、令和７年度ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業「ＳＦＴコンソーシアム会員等事業支援プログラム」に係る事業（Ⅰ期）の採択を受けて実施しております。

斎藤　利之（文責）

□フォトギャラリー□

空港受入れ	市長表敬訪問	ラジオ出演
太鼓セレモニー	開会式	全体写真 （集合写真）
スポンサー提供の様子 （ポカリスウェット）	スポンサー提供の様子 （山崎製パン）	スポンサー提供の様子 （サントリー）
バスケットボール	卓球	フットサル

バスケットクリニック	SFT＆韓国横断幕	救護体制
浅草観光	通訳３名	記念の盾（贈答）

関連 URL

https://www.anisa.or.jp/news/20250820

https://www.city.higashikurume.lg.jp/shisei/koho/news/1025604/1027548.html

https://www.sokorea.or.kr/bbs/board.php?bo_table=story_list6&wr_id=144

協賛企業様等（順不同・敬称略）

（株）パレンテ／アート引越センター（株）／（株）大山製作所／ミズノ（株）／大塚製薬（株）／（有）山下商事／嶋田保全（株）／（株）和幸／サントリーHD（株）／山崎製パン（株）／ぜんち共済（株）　杉　雄一

その他

執筆内容は、執筆者の原文をそのまま掲載しております。